川崎市青少年科学館紀要，(25): 17-20, Mar. 2014

プラネタリウム「ベビー＆キッズアワー」の実施について

成瀬裕子*

A operation report of the planetarium for babies and little children

Yuko Naruse*

かわさき宙と緑の科学館では、平成25年度より、乳幼児向けプラネタリウム投影「ベビー＆キッズアワー」を実施している。騒いでしまう、泣いてしまうといった心配があるため、プラネタリウム観覧を遠慮している乳幼児連れの保護者にも気軽にプラネタリウムに来ていただき、星空に親しんでもらうためのプログラムである。「ベビー＆キッズアワー」の概要と、投影内容について報告する。

1. 背景

川崎市青少年科学館（通称：かわさき宙と緑の科学館）は、生田緑地という公園内にある。平日は学校などの団体利用が多く、個人の来館者のほとんどは大人である。一方、休日は、公園内にも子ども連れが目立ち、昼食を摂りながら長時間滞在する姿も多く見受けられる。プラネタリウムの公開（一般投影）は、平日では15:00の1回、休日は10:30/ 12:00/ 13:30/ 15:00からの4回、それぞれ45分間行っているが、休日の10:30の回は、子ども向けの解説と15分程度のアニメーション番組を用いた、子ども連れの来館者が選択しやすいプログラムとなっている。

しかし、乳幼児を連れた保護者にとっては、乳幼児が元気に騒いだり、不慣れな場所や暗闇を怖がったり、泣いたりすることなどの理由により、たとえ子ども向けのプログラムがあったとしても、プラネタリウムに入ることを遠慮しがちである。「ベビー＆キッズアワー」はこうした乳幼児と保護者を対象に、「騒いでも大丈夫」「泣いても大丈夫」という安心感のもとでプラネタリウムを楽しんでもらうための企画である。

2. 実施概要

①対象・定員

乳幼児（4歳くらいまで）とその保護者

定員200名

大人だけでの観覧はご遠慮いただいている。

②実施日時

第1・第3水曜日　午前10:30~

祝日や休館日となった場合は実施しない。また、夏休み期間中の8月やメンテナンス期間は実施しない。乳幼児向けであるため、外出の都合やお昼寝の時間を考慮し、午前中の実施とする。

③追加投影

10:30の回が満席になった場合、11:30から追加投影を行う。平成26年度では、4月16日と7月16日に追加投影を行った。

平成25年度は、月1回の投影であったことから来館者が集中し、追加投影も多く行った。平成26年度は月2回の実施であるためか来館者は分散し、追加投影の回数は少なくなっている。

④投影時間

約35分間

一般投影や子ども向け投影（45分間）に比べ、10分短い構成とする。

⑤誘導

投影中は、出入り口となる扉2箇所にそれぞれスタッフが待機し、途中退室する観覧者を懐中電灯で誘導する。このため、解説者が解説を中断することなく投影を進めることができる。また、激しく泣いている乳幼児には、スタッフが声を掛けるなどのフォローもなされる。

⑥告知媒体

- チラシ（配布範囲：館内、生田緑地東口ビジターセンター、市内各区保健福祉センター/ステーション）(図2)
- プラネタリウムリーフレット
- 科学館だより
- ウェブサイト　(http://nature-kawasaki.jp)
- ツイッター　(@kawasaki_purin)
- フェイスブック（かわさき宙と緑の科学館）

図1.「ベビー＆キッズアワー」実施日の様子.

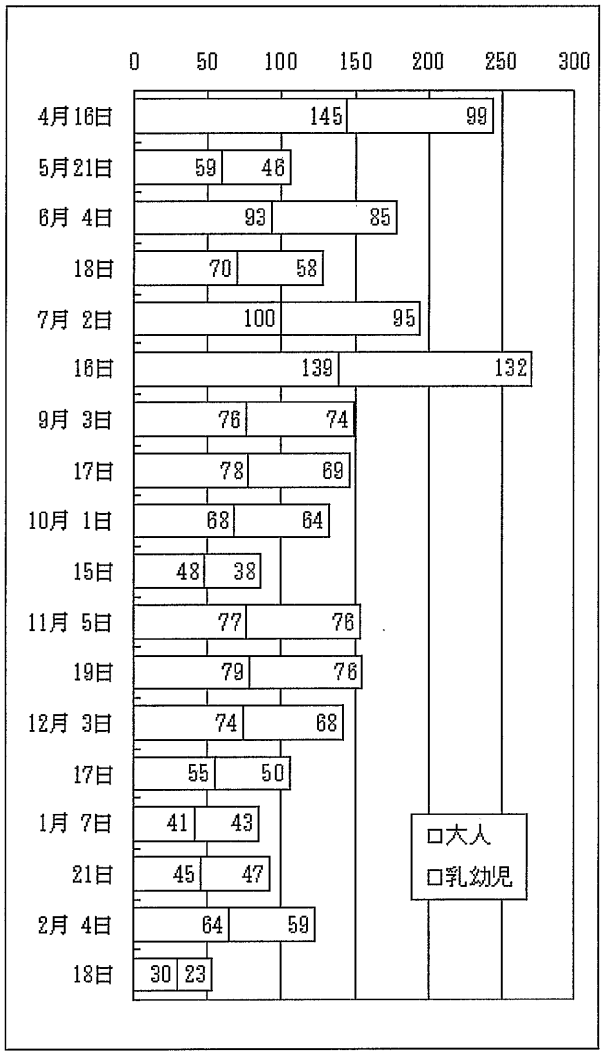
3. 観覧者数

平成26年度に実施した中で最も参加者の少なかった2月18日は、雨天かつ気温も低い日であった。観覧者数は

＊川崎市青少年科学館（かわさき宙と緑の科学館）
＊ Kawasaki Municipal Science Museum

天候の影響を受けやすい傾向があると感じられる。晴天

表 1.　平成 26 年度「ベビー＆キッズアワー」観覧者数.



※4 月 16 日は満席となったため、11:30 から追加投影を行った。

10:30　大人 101 名　子ども 99 名　計 200 名

11:30　大人　25 名　子ども 19 名　計 44 名

※7 月 2 日は 13:30 より実施した。

※7 月 16 日は満席となったため、11:30 から追加投影を行った。

10:30　大人 103 名　子ども 97 名　計 200 名

11:30　大人 36 名　子ども 35 名　計 71 名

の日、また暖かく過ごしやすい気候の時期は、観覧者も多い。一方、雨天の日は観覧者が少ない傾向にあるものの、それでも平均 40 組程度、80 名以上の観覧がある。

4. 投影内容

大まかな流れは、青空～日の入り～一番星～満点の星～天体・星座～日の出、という、プラネタリウムの基本的な展開を踏襲しているが、当館の子ども向け投影よりも更に平易な解説・内容とする。また、童謡を歌ったり、解説者が観覧者に話しかけたり、遊んだりするなど、乳幼児でも楽しめるような場を作る。満天の星になる場面では、手拍子や掛け声を併用したり、歌ったり、ゆっくり暗転するといった配慮があるほうが、驚いたり怖がったりしにくいようである。

解説中、画像や写真をドームに投影したり、（当館では通常、あまり行わないことだが）星座名を字で表示したり、子ども向けプログラムで使うアニメーションを流すこともある。

次に、解説員による話しかけの例を挙げる。乳幼児を意識した進行により、以下のような反応・動作が見られた。

表 2. 乳幼児向け投影の進行例.

進行	観覧者の動作
じゃあ、今日は、どんな人が来てくれたのかな。教えてください。 初めての人？来たことある人？	手を挙げる
大人の人？子どもの人？「はーい」	返事をする
みんな何歳なのかな。 5 歳の人いますか？どこにいますか？ 4 歳の人！3 歳の人！2 歳の人！1 歳の人！まだ 1 歳になっていない人！！	年齢を答える
男の子いますか？女の子は？ 大きな声で、男の子ー！「はーい！」	声を出す
○月生まれの人はいますか？おめでとう。みんなでお祝いしましょう。（ぱちぱちぱち･･･）	お祝いする
ごあいさつをしましょう。みなさん、こんにちは。「こんにちは」	あいさつ
どこかに矢印くんがいないかな？ 「いたー！」	探す
一緒に呼んでくれる？「いいよー」	反応する
せーの、「やじるしくーん！」	呼ぶ
今日は、どんなお天気だったかな。晴れていた？ 雨だった？	思い出す
晴れた日の空で、とっても明るくて、まぶしいもの、なーんだ？「太陽！」	考える
あれれ。太陽を見ていると･･･ 「動いてる」「赤くなった！」	観察する
太陽が沈んでいきます。また明日ね。ばいばい。「ばいばーい」	手を振る

夕焼け小焼けの歌、知っている人はいますか？歌ってくれるかな？	歌う
星、見たことある？ 誰と見たの？いつ？ どこで？	自分のことを話す
何か見えるかな？きらきらしたものありますか？「あった！」	見つける
どこかな？「あっち！」	教える
これなあに？「星！」	答える
金星っていいます。「き・・・」 き、ん、せ、い。「き、ん、せ、い」	名前を覚える
この星なんていう名前だっけ？「きんせい！」	覚えた言葉を使う
大きなバナナがあるよ！「えーっ！」「月！」	つっこむ
この形、どんな形？「しかく」	図形
この形、何に見える？ 「おべんとうばこ」「えほん」	見立てる
お弁当食べたいね！みんな何食べたい？「ウインナー」「おにぎり」	想像する
おにぎりどうやって作るの？「ぎゅーってする」	真似る
おにぎりの大きさ、どれくらい？	確かめる
星が見えた人は、手をぱちぱちしてください。（ぱちぱちぱち･･･）	手を叩く
星がもっと見えるように、ぱちぱちぱち･･･（ぱちぱちぱち･･･）	手拍子をする
むかしむかし、あるところに。オリオンという･･･	お話を聞く

5. 投影にあたって

投影内容は解説者が自由に構成するが、「ベビー＆キッズアワー」の投影にあたり、各解説者によって心がけられたポイントには以下のようなものがあった。

・騒いでも大丈夫

乳幼児が大声を上げても制止しない。「元気がいいですね」「よく知っていますね」と反応し解説に活かす。また逆に、ひそひそ声で話しかけるなどの対応も試す。

・泣いても大丈夫

始まる前から、泣いても大丈夫だと観覧者に伝えておく。始めは泣いていても次第に落ち着いたり、注意を惹くと泣き止んだりすることもあるので、多少泣いてもそのまま解説を続ける。解説中に「びっくりしちゃったかな？」などと話しかけることもあるが、保護者が気まずく感じたり退出したくなったりするような言葉は使わない。

・出ても大丈夫

泣いてもそのまま観覧してもらうが、乳幼児が非常に怖がったり辛そうだったりする場合はこの限りではない。乳幼児が嫌がった場合は無理をしないよう、途中退室できることを予め伝えておく。号泣しているのに退出しない場合は、保護者に「大丈夫ですか」と話しかけたり、室内を少し明るくしたり、扉の位置を再度案内するなど働きかける。

なお、室内が暗く、扉と各座席までの動線が長いため、再入場はご遠慮いただいている。

・「おうちのひと」

「お父さんお母さん」ではなく「おうちのひと」。父母以外の保護者と来ているケースも想定し、呼び方に留意する。

・大人が楽しめる話題も

投影中は乳幼児向けに話しかけるが、時折大人が聞いて楽しめる話題も織り交ぜる。「ちなみに大人の皆さん、この木星には衛星があります。50個以上見つかっているんです」など。大人の皆さん、と呼びかけてから話すと、明らかに大人から反応が返ってくる。大人同士が会話しながら楽しむ様子も窺える。

・仲良くなっておく

投影を始める前に客席をまわり、観覧者、とりわけ乳幼児とのコミュニケーションを取る。会話から解説のネタを拾えることはもちろん、乳幼児の緊張がほぐれたり、親しみを持って投影に望んでくれたり、保護者から要望を貰いやすくなったりする。

また、保護者同士が連れ立って来館したようなグループではなく、保護者個人が乳幼児と来館したような方には、「ooちゃんのお母さん」としてではなく、大人同士としても会話を交わしてみる。さらに可能であれば、子どもを通じて周囲の大人同士の会話も始まるよう、さりげなく間に入ってみることも試みる。子育て中の保護者の方々に、わずかでもコミュニケーションやくつろぎが提供できればと考える。

・解説をがんばり過ぎない

飽きないように盛り上がるようにとあれこれと注意を惹こうとすると、ともすれば一方的に話しがちになるが、投影の始めから終わりまでを解説員が全てリードしなくてもよい。星空をじっくり楽しんだり親子の会話を促し

たりと、観覧者に楽しみ方を委ねる時間があってもよい。解説員が話さない間があれば、子どもは保護者とコミュニケーションが取れる。親子で星空の下で快く過ごしてもらうことが、「ベビー＆キッズアワー」の最大の目標ではないかと考えている。

・星を眺める
　満天の星につつまれる場面を必ず入れる。

・楽しんでもらう
　「ベビー＆キッズアワー」に限ったことではないが、夜空を眺めるのは楽しい、今夜空を眺めてみよう、と思ってもらえるような投影を目指したい。

図 2. 「ベビー＆キッズアワー」チラシ.

6. 課題

乳幼児とのコミュニケーションの取り方については、更なる試行錯誤の余地がある。日頃、乳幼児に接する機会のない解説員が「子どもとのふれあいかた」を学ぶには、幼児向けのテレビ番組や歌に触れたり、子ども連れの来館者とのコミュニケーションを図るなどの方法が考えられるが、保育士の方や保育園を訪問するなど、子どもへの理解を更に深められるような研鑽の機会を持つこともまた検討したい。

7. まとめ

1) 観覧者からは、「楽しかった」「また来ます」との感想も寄せられ、再度来館される「リピーター」も見受けられる。乳幼児連れでも観覧できるプラネタリウムとして企画された「ベビー＆キッズアワー」は、多数の市民に活用され、実施の目的は達成できている。

2) 一方、一解説者の立場で考えると、乳幼児が泣き叫ぶ中で落ち着いて話すには、多少とも慣れが必要であろう。しかし、乳幼児と保護者に星空を楽しんでもらえたときに得られる達成感は、まさにプラネタリウムならではのものであり、「ベビー＆キッズアワー」は星空に親しむことに年齢の差は関係ないことを改めて実感できる機会ともなった。

3) 科学館には、自然科学のおもしろさや魅力を伝えると共に、市民の生涯学習や生涯活動の場としての役割がある。また、プラネタリウムは、宇宙のおもしろさや最先端の天文学を伝えながら、更に多様な楽しみ方もできる豊かな空間でもある。「ベビー＆キッズアワー」はそれらの一端として、地域の人々が集い、星空に親しむ場を提供している。これからも「ベビー＆キッズアワー」を通じ、広く星空に親しんでもらえるよう、投影を行っていきたい。